

早川： なるほど、そうするとそういうものが人それぞれ自分達でまた見つけていく楽しさもあるわけですね。

石黒： そうですね、たとえば私はニューヨークで住んでいるんですが、私の部屋から **World trading center** がみえるんです。そうしますと、だいたい4時か5時ごろ夏陽があたります、東から。ピンクになってだんだん色が変わって行って日中はメタリック非常に金属性のもになって、夕方になるとまた変わるんですね。そういったことを自分の部屋の窓から見ているという楽しみ、例えば家に住んでいるときでも、自分達が朝の光でたとえば外を見たり、夜の暗さの中で外を見たり、あるいは夏の暑い日差しの中で過ごそうとしたり、そういうことを選択を失っているのではないか、それが私の考えている環境プランニングなんです。

早川： 環境というのは、こうしちゃダメです、リサイクルしなさい、こうしなさいとか決めつけというものではなくて、それぞれがなにか自分の中から見つけていくもの、というような感じもしてきますよね。

石黒： 贅沢な人間が楽しめるんです。いろんなことをやってみたい人間が楽しめるんです。そういう訓練さえ、あるいはそういう欲望さえもっていれば人間は十分環境を楽しんで住むことができる、そういう空間をあげたい、私たちがそういう空間を提供してあげたい、それを設計してあげたい、というのが私の希望でもあるんです。

早川： そうですね。そういうお仕事のかたわらで今回の4月22日23日の **Earth day 2000** 年地球の日の開催の準備を進めていらっしゃるわけですが、具体的なお話も次週いろいろ伺わせていただくとすけれども、やっぱりきてくださる皆様にはさりげなく自然に久屋公園にあの付近に集まっていたら、なにかがみつかるのでしょうか。

石黒： 何かが見つかるという、帰りにあめがもらえとかいう話もありまして。(笑) **Earth day** のシンボルの金太郎あめをつくりまして、そういうものは帰りにみなさん持って帰ってもらいますが、いちおう姿勢としては、なにか自分の人生にとって大事なものがそこにあるにちがいないというぐらいの、多少だまされたかんじでもきていただくと20ブースありますので、それをいろんなテーマでみてスタンプラリーしますのでかんじとっていただけたらと思います。

早川： そうですね。そしてまた当日、ボランティアとかあるいはいろんな意味で参加してくださる方たちも今募集をしていらっしゃいますよね。

石黒： ボランティアはいちおういろんなところへお願いをして何人かきていただくという予定をしておりますし、要はこういった会は参加者がいかに優秀であるか、参加者がいかに一生懸命であるか、参加者がいかに興味深々ときてくれるかということによって、これが成功するあるいはうまくいくということになる、たとえ成功したという評価がでなくても私自身はそれを事実として、日本の環境